

# 出向く営農レポート

## たまねぎ苗の防除について



南部営農センター豊明地区担当  
石川 貴章

JAあいち尾東は、学校給食出荷に向けたたまねぎの生産増に力を入れています。たまねぎを安定供給するためには苗が肝心です。そこで、たまねぎの苗場の生育状況を確認するため圃場へ行きました。

たまねぎの苗は11月になると店頭で見かけますが、播種の準備は9月から始まります。播種後は、病害虫の防除、発芽をそろえるため乾燥しないよう灌水管理\*が重要になります。特に苗場で注意したいのが、「苗立枯病\*」です。高温多湿の環境下で発生しやすいため、オーソサイド水和剤80を散布して予防します。また定植後についても、暖冬傾向にある昨今、11月以降もべと病\*や、白色疫病\*等に注意が必要です。特に気温が上がり始める少し前の2月頃から、殺菌剤を散布し予防を心掛けましょう。

良い苗を供給することで、あいち尾東管内のたまねぎ出荷の安定を図ります。

※灌水管理…水を与えること。

※苗立枯病…発芽直後の苗が地際から倒れて枯れる病気。

※べと病…カビ(糸状菌)により葉に発生する病気。気温15℃前後、日照不足で雨の多い年に多発しやすい。

※白色疫病…葉に青白色の病斑を生じ、広がると葉が折れ曲がったり葉先が垂れ下がる。排水不良の畑で発生しやすい。



※苗場の様子



※苗立枯病の様子(ルーラル電子図書館より)

### 注意する病害虫

#### 苗立枯病

##### ・オーソサイド水和剤80

希釈倍数：600倍  
前日まで  
5回以内  
(灰色かび病、白色疫病)



#### べと病

##### ・ダコニール1000

希釈倍数：1000倍  
7日前まで  
6回以内  
(白色疫病、灰色かび病)



#### アザミウマ類

##### ・マラソン乳剤

希釈倍数：2000～3000倍  
7日前まで  
6回以内  
(アブラムシ類、ハモグリバエ類)



11月には各グリーンセンターでたまねぎ苗を販売しています。